

資料 4-1
令和3年度第4回
事業評価委員会

東京都市計画道路放射第23号線 (世田谷区北沢四丁目～同区北沢五丁目)

令和3年11月1日(月)
建設局道路建設部

目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	5
3. 事業の投資効果	6
4. 事業の進捗状況と見込み等	9
5. コスト縮減等	11
6. 対応方針(原案)	12

1. 事業概要(1)

[全体概要]

路線名：放射第23号線

区 間：港区北青山三丁目
～杉並区松庵一丁目

延 長：約12.0km

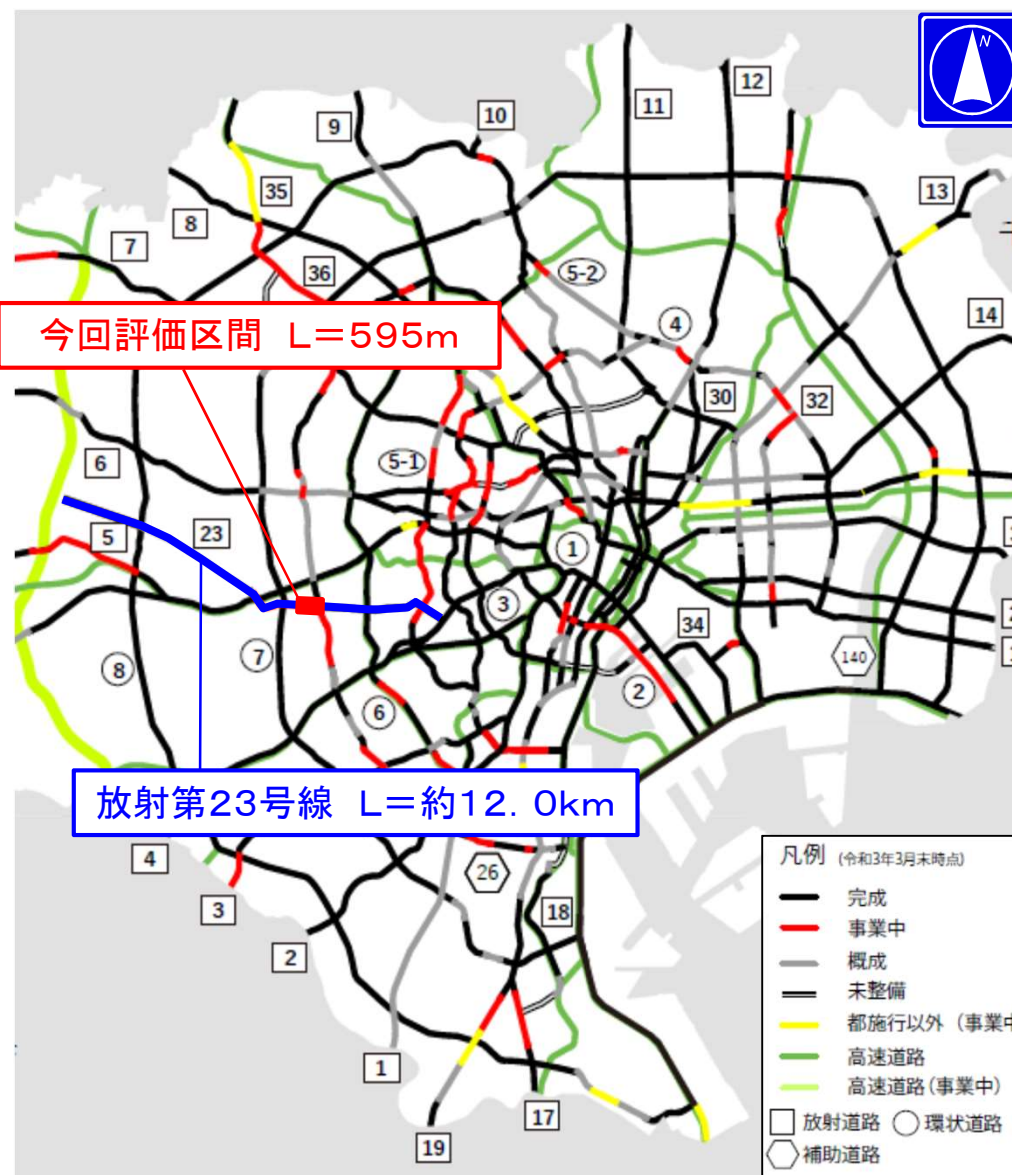
[今回評価区間]

区 間：世田谷区北沢四丁目
～同区北沢五丁目

延 長：延長595m

幅 員：25～28m

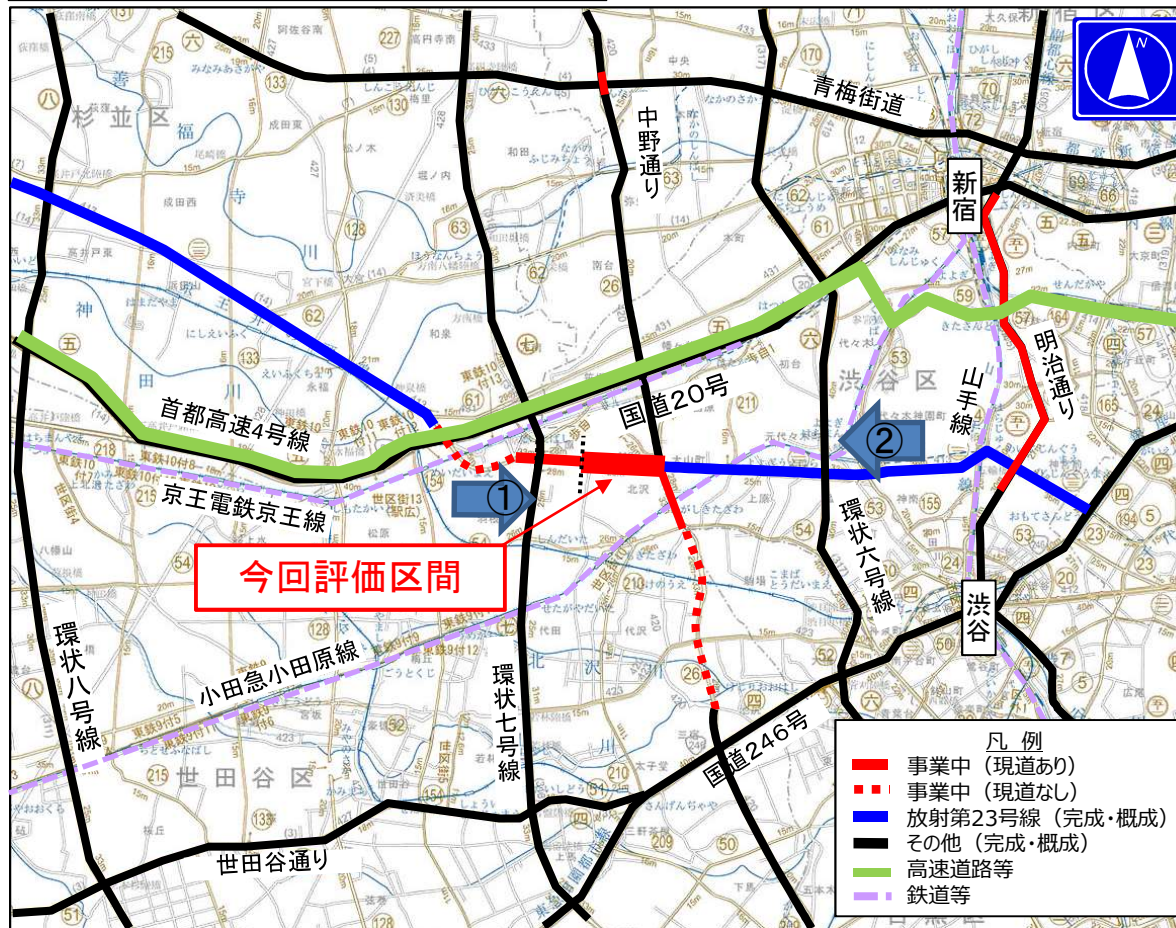
事業費：約140億円



年度	計画等
昭和21年3月26日	都市計画決定
平成3年6月28日	事業認可取得
令和5年3月31日	事業認可期間

1. 事業概要(2)

今回評価区間周辺の概要



事業の効果

- 放射方向の道路ネットワークが強化され、**交通が円滑化**
- 延焼遮断帯が形成され地域の**防災性が向上**
- 電柱のない、緑豊かな歩道を整備することにより、**快適で安全な歩行空間、良好な都市景観が創出**

同一路線の沿道状況



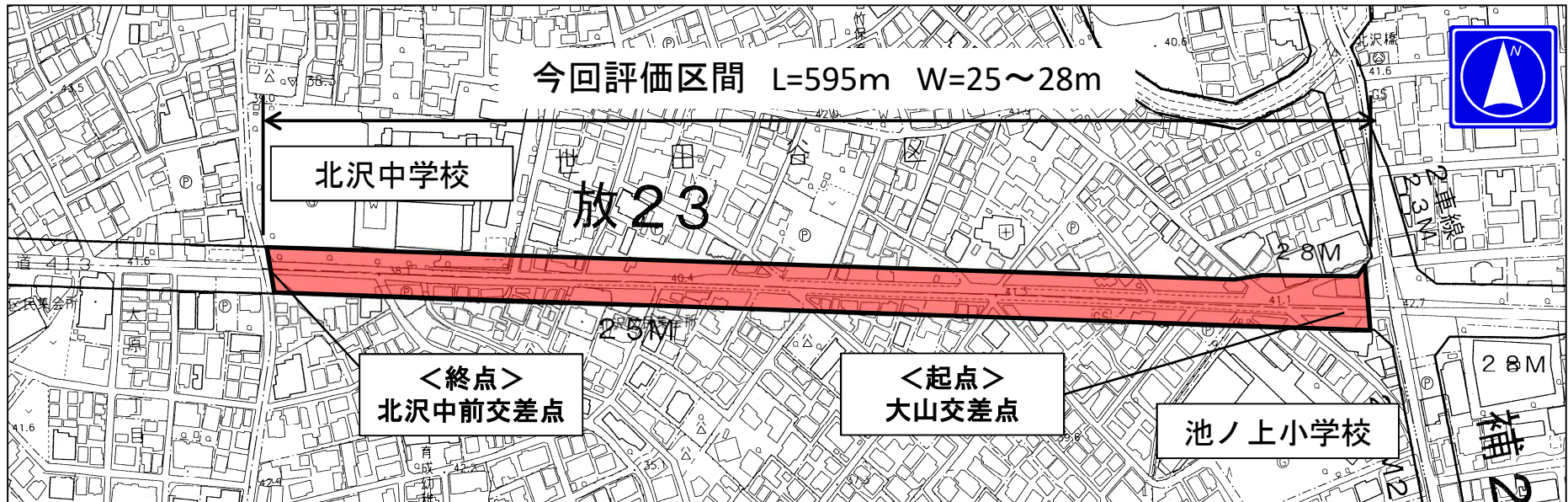
① 環状第七号線
大原二丁目交差点付近



② 環状第六号線
富ヶ谷交差点付近

1. 事業概要(3)

平面図

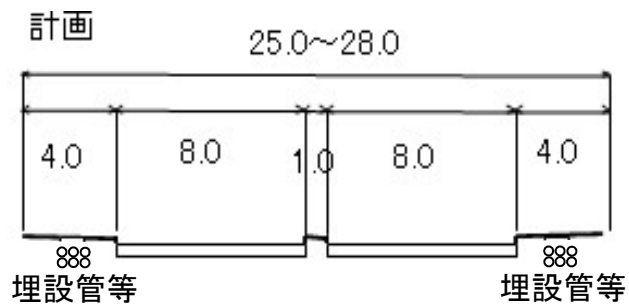


断面図

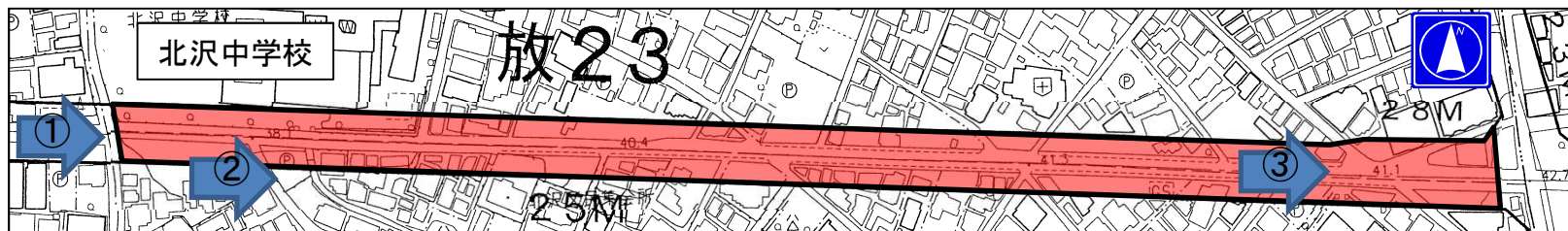
<現況>



<将来>



1. 事業概要(4)



前回
評価時



現況



終点側(北沢中学校交差点)

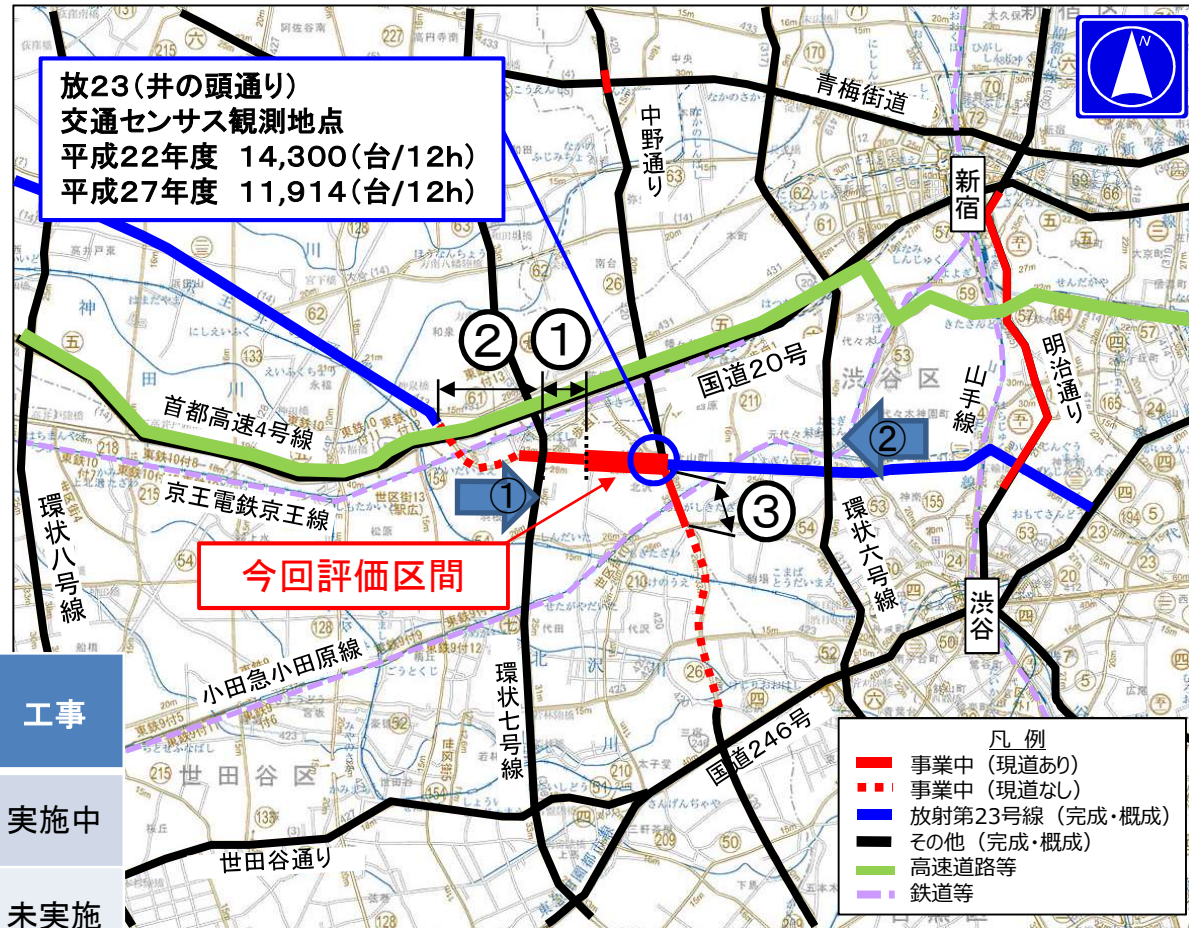
北沢中学校付近

起点側(大山交差点)

2. 社会経済情勢等の変化

周辺交通の状況

- 本路線周辺の現況交通量
(H27年度) は、H22年度と
比較して約2,400台減少



関連する他事業等の状況

番号	地区	着手年度	用地	工事
①	放射23号線 (大原)	H8	99%	実施中
②	放射23号線 (松原)	H27	27%	未実施
③	補助26号線 (東北沢)	H18	96%	実施中

3. 事業の投資効果(1)

定量的効果

【便益(B)の算定】

現在価値化総便益額	430.5億円
走行時間短縮便益	406.4億円
走行経費減少便益	22.5億円
交通事故減少便益	1.6億円

【費用(C)の算定】

現在価値化総費用額	309.2億円
工事費	33.3億円
用地費	272.0億円
維持管理費	3.9億円

※費用便益分析マニュアル(国土交通省 平成30年2月)に基づき分析

【費用便益比(B/C)の算定】

$$\underline{B/C = 1.4 \quad (\text{前回 } 1.5)}$$

3. 事業の投資効果(2)

定性的効果

	事項	該当
交通	交通渋滞の解消	○
	物資流動円滑化への寄与	○
	バスの定時性	○
	迂回交通の減少	○
景観	都市景観の向上	○
防災	緊急車両の走行	◎
	延焼遮断	◎
	災害時の避難路の確保	○
	消防活動困難地域の解消	○

	事項	該当
くらし	土地利用の転換・高度化	○
	交通不便地域の解消	○
	商業・産業の活性化	○
	公共施設へのアクセス向上	○
安全	交通事故の減少	○
	バリアフリー化	○
	自転車や歩行者のための空間確保	○
	その他	

※該当欄の◎は次頁以降に概要あり

3. 事業の投資効果(3)

<防災> 延焼遮断 緊急車両の走行

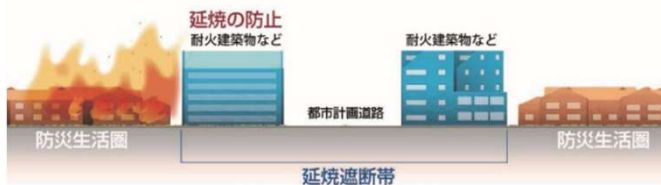
- 延焼遮断帯の形成による延焼遮断機能の発揮
- 無電柱化による都市防災機能の強化
- 災害時の緊急輸送の円滑化など、緊急輸送道路としての機能の発揮



出典: 防災都市づくり推進計画の基本方針
2020(令和2)年3月(2021(令和3)年3月一部修正)



東京都緊急輸送道路ネットワーク



延焼遮断帯のイメージ

凡例	
通称道路名 (緊急輸送道路)	整備地域
国道路線番号	災害時給水ステーション
都道路線番号	
東京都界	
行政区区界	
緊急輸送道路	
一次路線	計画道路
二次路線	二次路線
三次路線	三次路線
緊急河川敷道路	緊急河川敷道路

4. 事業の進捗状況と見込み等(1)

事業費の執行状況

(R2年度末時点カッコ内は前回評価時点)

	用地費	工事費	合計
全体事業費(百万円)	12,586(12,447)	1,223(1,034)	13,809(13,481)
執行済額(百万円)	12,547(12,422)	936(827)	13,483(13,249)
執行率(%)	99.7(99.9)	76.5(79.9)	97.6(98.2)

用地取得状況

取得予定面積 (A)	既取得面積 (B)	用地取得率 (B/A)
9,418m ²	9,382m ² (9,382m ²)	99.6%(99.6%)

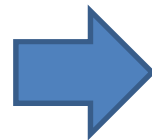
4. 事業の進捗状況と見込み等(2)

一定期間を要した背景等

- 多くの地権者から事業への理解・協力を得られたが、一部地権者からの協力を得られておらず、用地折衝に時間を要している。

残事業の取り組み及び進捗の見通し等

- 用地は99%取得済みであり、残る未取得用地についても早期更地化を目指し、折衝を進めていく。
- 現在、車道の4車線化に向け補償代行工事や、排水管工事、電線共同溝工事を実施しており、引き続き、早期完成を目指していく。



北沢中学校付近の対応状況

5. コスト縮減等

コスト縮減や新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- 一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって新工法、事業手法、施設規模等の見直しの可能性は極めて少ない。
- 無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画（R3.6改定）を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。



その他のコスト縮減の取組

- 施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。

6. 対応方針（原案）

（事業の必要性等に関する視点）

- 放射方向の道路ネットワークが強化され、交通の円滑化が図られる。
- 延焼遮断帯が形成され地域の防災性が向上する。
- 電柱のない、緑豊かな歩道を整備することにより、快適で安全な歩行空間が創出され都市景観が向上する。

（事業の進捗の見込みの視点）

- 用地は99%取得済であり、残る未取得用地についても早期更地化を目指し、折衝を進めていく。
- 現在、排水管工事、電線共同溝工事等を実施しており、早期完成を目指していく。



対応方針（原案） 継続

- 放射第23号線は周辺地域の交通渋滞緩和、延焼遮断帯や避難路としての機能、快適で安全な歩行空間、良好な都市景観の創出の観点から、事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切。
- 中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。